

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都市 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	京都市立西京高等学校定時制 第3学年（男子17名女子15名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 (人権学習)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	車いすバスケットを体験することと、選手の講話を聞くことにより、障がいについて理解を深め、すべての人がお互いに支え合い共存していく社会を形成する社会人となるひとつの機会とする。
5 取組内容	<p>1 事前学習</p> <p>車いすバスケットボールについてのテレビ番組 NHK「めざせ！2020年のパラリンピアン」 — 車いすバスケット鳥海連志 — を鑑賞</p> <p>2 車いすバスケットボール体験</p> <p>(1) 選手紹介・競技説明・模範演技</p> <p>(2) 車いす体験・クラス対抗試合</p> <p>(3) 選手代表の体験談・質疑応答</p> <p>3 事後学習</p> <p>感想文記入、各クラスで意見集約</p>

6 主な成果

・競技用車いすの操作の難しさ、ドリブルの難しさ、シュートの難しさなどを体験し、苦戦しつつも楽しんでいた。車いすバスケットの体験後、選手の貴重な体験談では、真剣に耳を傾けていた。障がいについての理解や障がい者スポーツに対しての関心を深めることができた。

生徒の感想文（抜粋）

〈選手の体験談について〉

- ・普段何とも思わないような自転車でも、車いすの人にとっては邪魔になっていることがよく分かった。
- ・車いすの方は多いから少しでも安全に暮らせるようにしたい。
- ・いつ自分にも起こるかも知れないことなので、これからはそういう事にも気をつけてバイクに乗るようにしたいと思った。
- ・辛い思いをされたけれど、今は車いすバスケットというスポーツに出会えて頑張っておられるのでよかったと思います。
- ・色々と困難を乗り越えて、ここまで頑張ってこられたんだなと思いました。
- ・挑戦すること、まずは何事もやってみること。やれば新しい発見に出会えることを教えられたお話でした。
- ・足が不自由なのはすごく大変で、それでも前を向いておられて、すごいなと思いました。
- ・とても良い体験のお話でした。街中で車いすの方を見かけた時は手助けができたと思います。

〈車いすバスケットの感想〉

- ・車いすバスケットを体験してみて、やっぱりすごく難しかった。
- ・方向転換が難しく、手だけでシュートを打たなければならないことや思い通りに動けず、普通のバスケより大変だった。
- ・ボールが全然取れなかったし、難しかったけれど思ったより速く動けて楽しかった。



〔写真：車いす体験〕



〔写真：車いすバスケット〕



〔写真：体験談講話〕

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1) 事前学習で、車いすバスケットボールに関するテレビ番組 NHK「めざせ！2020年のパラリンピアン」 — 車いすバスケット鳥海連志 — を鑑賞することで、 車いすバスケットボールについての知識・理解を深めた。</p> <p>(2) 少人数での学習ということもあり、全生徒が車いす体験と クラス対抗試合に参加できる時間を確保した。</p>
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・競技用車いすを借りる申込みの時期の確認 ・他校の車いすバスケットの体験学習との日程調整 ・運送費用の問題
9来年度以降 の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度と同様に車いすバスケットの体験学習を実施予定